

414
A 3973



明治九年六月十八日吉井友實外三名ト品川忠道ト深川平瀬

ニ於テ會議品川へ同意ノ概目左ノ如シ

目

- 一 社員ノ内一名寄陽へ出張諸事取扱可申事
- 一 木燧製造方及細工場建築器械備付藥品買上方等都テ右社員見込通可取計事
- 一 官金並ニ集合金ハ都テ本社へ請取資本ヲ一ニシテ其拂方ハ本社見込ノ通り取計金主へハ子金丈ヲ可渡事
- 一金主へハ壹ヶ年幾度歟時日ヲ定メ社内帳簿ヲ検査セシムル事

新燧社員

吉井友實

大正十一年六月



清水 誠
陸原 惟厚
武内 文吉

右社ノ定員ニ付御承リ置可被下候事

東京第二十三号

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

過日以來摺附木ヲ大製シ清地へ弘賣スルノ陋見ヲ陳述仕候
末方今御着手ノ在ル所逸々拜聴仕處試候ニ其制出ノ良ナル
恰モスウエーセス 摺附木ニ少異ナシ實ニ攸然ノ至リニ御座候近
頃傳承候ハ該品ノ詮益アルヲ著目シテ於横濱ハ米人アラウン
マター一日ニ一萬小箱ヲ製出シ其品物廉悪ニシテ恐レニ足ラ
ズト雖彼若レ日清間ニ之ヲ賣出スルノ企望ヲ 起シ機械
ヲ講入シ本職ノ者ヲ催ヒ大製セバ彼レニ先ヲ取ラレ然レ後
我方ニモ之ヲ壓止セントスルハ容易ナラス且損亡少シトセ
ズ若又之ヲ清地貿易ニ用ントセバ附木ハ危儉烈火物トセバ
運賃他物ニ倍シ東京ヨリ該所ニ送ル便ナラス故ニ本社マタ
長崎地方ニ機械ヲ装置シ大製セハ是又閣下ニ取リ該業 振起ノ障碍ヲ
為スモノト意ニヤ茲ニ於テ閣下御異存無之ハシシテ社ノ支

ヲ長崎接近ノ地方ニ置キ要用ノ金額ヲ定メ半金ハ官金ヲ仰
キ半金ハ同志ノ者ヲレテ出サレメ本支兩社ノ資本ヲ一ニシ
兩地ニ之ヲ大製セバ更ニ一二年ヲ待タズレテ日清兩地へ海
外ヨリ輸入スルヲ壓制スベク良策ト被存候
一官金ヲ仰グハ敢テ資本ノ集合少キ故ニ出テズ唯然ル時ハ官
主特別是ガ保護ヲ致シ是ガ便益與フルニ緊用ノモノトス
一過日御手元へ差出置レ摺附木機械購入諸件ノ内御國內ニ
製出ノ容易ナルモノハ本邦ニ於テ造ラシメ新規ニ購入セン
トスルモツハ僅少ニシテ足りトス故ニコレヲ購入スルハ當
分差置直ニ著手ノ要件器械ヲ御下命御送相成製法示教ノ
爲御一名御差立相成候テハ如何哉伺上候若御異存モ無御座
候ハッレンシウ社長一名ヲ御撰抜ノ上ハ迅速官金下渡レ並
ニ返辨等ノコトヲ大藏郷殿へ申立度猶御示談ヲ乞候儀ニハ候

候得トモ一ト先賢慮ヲ伺度ト存呈寸楮候拜 謹言

明治九年六月

品川忠道

吉井友實殿

閣下

